AMDAの活動から「救える命があればどこへでも」

講師：津曲（つまがり） 兼司 先生
AMDA 緊急救援医療事業シニアアドバイザー

9月10日（木）6・7時限、AMDAの緊急救援医療事業シニアアドバイザーである津曲兼司先生をお招きし、国際理解講演会を開催しました。

まず文化系の学生だった先生が医学部へと転進した動機や、それにつながるアフリカ・ケニアでの体験、新たな価値観の構築について話されました。さらに、目標を達成するためのユニークな発想や工夫についても紹介されました。

次に、AMDAチームの中心的な医師として、ソマリアやバングラデシュにおける難民や被害者の救援活動の様子、阪神・淡路大震災での医師団としての苦労、さらに今年4月に起きたイタリア大地震の被災地での救援活動の様子など、緊急救援医療の実態について、現地の写真を交えながら情熱的に話されました。

津曲先生の話を聞いて

3年　齊藤 沖真

AMDAで活躍している津曲先生の話を聞いた。阪神淡路大震災での救援活動や、ソマリアでの医療活動、イタリアでの地震など、とても興味深い話ばかりであった。その中で僕が一番印象を受けたのは津曲先生の人生観であった。自分の目標を見定め、それに向かって努力を惜しまない先生の姿を想像すると、「やる気こそがすべて」という言葉が現実味を帯びてくる。

今まで他の先生から聞いた話だと、医者は自己を犠牲にしてでも患者を救う聖人君子のようで、自分は果たしてそんな大役を担うことができるのだろうかと不安になっていた。しかし、津曲先生の「自己犠牲の中に自分の糧を見つける」という考えを聞いたことで、そのような不安は消えた。

「思えば必ず成る」この言葉を信じて、今後自己を高めるために努力していきたい。

講演を聞いて

2年　三輪 祐大

今回の講演はとても良いものでした。なぜなら、津曲先生のお話を聞いたことで、自分の物事に対する考え方がいくらか変わったからです。

特に影響を受けたのは、ボランティアに対する考え方です。先生は「ボランティアは人のためではなく、自分のためにするものだ」とおっしゃいました。人を助けることで、その行いをしたことに対する満足感が自分を幸福にすると言うのです。確かにこのような考え方をすることで、ボランティア活動に積極的に参加することができるのではないかと思いました。さらにこのことは、先生が取り組まれた災害現場や難民キャンプでのボランティア活動についてだけでなく、自分自身の毎日の生活についても言えることだと感じました。これからは日々の生活の中で、小さな人助けをすることができればと思います。